

福祉事業者 食パン参入

ケアスイッチ 高崎に開業 県内に専門店相次ぐ

高齢者福祉施設を運営するケアスイッチ(伊勢崎市堀下町、山)に専門店「まじやバク



食パン専門店「まじやバクくない?」で販売する「ヤバくない正論」(左)と「ヤバくない完熟」

ない?」を高崎市飯塚町に開業し、多店舗展開を視野に入れる。県内では専門店の出店が相次いでおり、消費者獲得競争が激しくなりそうだ。

商品展開は甘みと口溶けにこだわった2種類。黒糖やはちみつ、生クリーム、バターを配合し焼き上げた「ヤバくない正論」(税別800円)と、「正論」の生地にしサンマスカットを入れた「ヤバくない完熟」(同980円)。2斤1本で販売する。

同社は伊勢崎市や大泉町、新潟市などで有料老人ホームや訪問看護ステーションを運営。入居者のパン需要の高さに着目し「おいしいパンを食べてほしい」と製造を検討する中で、提供範囲を施設外に広げようと出店を決めた。店舗運営会社としてTatta(タッタ)を立ち上げた。个性的な店名を含む店舗プロデュースは、ジャパンベーカリーマーケティングは、太田市小舞木町に開業した食パン専門店「なま剛力スタジアム」もプロデュース。全国展開する専門店「乃が美」はなれも高崎、前橋両市に出店しており、山本社長は「顧客に選択される店にしたい」と話している。